＜親子コミュニケーション応援編＞

教材番号　　**ｺ—6**

**２**

対象(時間)：概ね２，３歳～６歳児の親　(50分程度)

**指示より支持してみよう**

【ねらい】 子供が自分で考えたり，試したりする行動を父親が見守るマンガを通して，見守ることの大切さについて考える。

【準備物】　学習者：筆記用具

主催者：名札，ワークシート，模造紙，付箋紙，フェルトペン(裏写りのしないもの)，アンケート用紙

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時　間 | アクティビティの展開例 | 留　　意　　点 | 備　考 |
| : | ○名札付け（来た順に） | ○全員が名札をつける。（ニックネーム可） | ※スケジュールを板書しておく。  ※机は４～５人程度の小グループ |
| ：  (３分) | ○ファシリテーター（学習支援者）　自己紹介，主旨・ルールなど説明。 | ○和やかな雰囲気づくりを心がける。  ○写真を撮る時は，前もって許可を得る。  ○「親子コミ」三つの特長(親等の悩みに対応，子供の気持ちを理解し自己を振り返る，具体的な子供との接し方についての情報提供)をファシリテーターが理解した上で，「子供の気持ちに共感した接し方，コミュニケーションの方法を，具体的にみんなで学びましょう」などと参加者に呼びかけ進める。 |
| ：  (５分) | **○アイスブレイク（雰囲気づくり）**  「テーマに関する自己紹介」  ①名前  ②子供の数・年齢  ③チャレンジしてみたいこと  ※時間に余裕があれば，  →ペアで自己紹介  →グループで他己紹介  という流れで進めることもできる。 | ○自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。  ○自己紹介の後で，ファシリテーターから「いくつになっても何かにチャレンジする姿は素敵ですよね。今日は子供たちのチャレンジに関わるエピソードから考えていきましょう。」などと教材の内容に入っていくと良い。 |
| ：  (10分) | ○タイトル，ねらいを読む。 **＜マンガを読んで考えましょう＞**  ○マンガ上段を読む。  ○設問①に記入し，話し合う。  ○マンガ下段を読んで考える。  ○設問②に記入し，話し合う。  ※口頭で考えを交流し合う方法もある。  ※時間に余裕がある場合には，マンガのエピソードを親役，子役になってロールプレイすることで，好ましい関わりに気づく方法もある。 | ○三つの約束＋１（発言の平等，人の発言を肯定，秘密の保守とパス有）を知らせる。  ○イラスト，セリフ，猫の言葉などをファシリテーターの言葉で丁寧に伝える。  ○上段では，子供が自分で考えたり，試そうとするのを待てない父親が指示をしたり，自分が代わりにやってしまっている流れを押さえる。  ○下段は，４コマ目で親子共に笑顔であることを押さえ，考えるようにする。  ※具体的な言葉かけや対応についてだけでなく，子供の気持ちや親の気持ちについても考えられるよう促す。 ※ファシリテーターがいくつかの意見を伝えるなどして全体交流とする方法もある。  ※ロールプレイをした場合は，その時の親子の気持ちを想像することができるよう声掛けをする。 | ※ワークシートは回収しないこと，正解があるわけではないので，自由に書いたり，話したりして構わないことを伝える。 |
| ：  (22分) | **＜考えましょう，出し合いましょう＞**  ○設問③について記入し，話し合う。  ※遊び，着替え，手伝いなどの  場面から思い出して記入する。  ○話し合ったことを紹介する。 | ○設問③について，ラベルワークで行うことが効果的。  ※予め模造紙に罫線や項目等を記入しておき，時間短縮の工夫をする方法もある。  ※時間がない場合には，項目を一つに絞って，話しても良い。  ※「付箋紙１枚につき，１つ書く」「簡単で良い」などを伝える。  ○困ったこと，うまくいかなかったことなど，同じような経験をしたことがないか振り返り，その時の子供の様子や気持ちを考える。  ※子供に伝わりやすい言葉かけや対応について考える。  ○子供の問題を「性格」ではなく「行動」に焦点を当てて捉えることの大切さに触れる。 | ※話し合うことで安心感が生まれることを体験してもらう。 |
| ：  (５分) | **＜ファシリテーターからの説明＞**  ○参考資料１のグラフ，参考資料２「親子のコミュニケーションサイクル」の紹介  ○参考資料３「親子のコミュニケーションに生かしてみては」の説明  ※ニコニコサイクルにつながるコツ，ポイントとして押さえても良い。 | ○グラフから「子供のやることについつい口や手を出してしまう」という人が３割近くいるなど，子育てに悩みを持つ人が少なくないことを押さえる。  ○資料等を活用し，必要に応じて次の点を伝える。  ・子供が自分で考えたり，試したりしている時は，見守るようにする。（自ら行動する力につながる。）  ・困っている時には，「○○したらどうかな」と子供が判断できるように働きかける。  ※イライラサイクルを否定するのではなく，日頃の子供への接し方を見つめ直す機会とし，イライラする関わりが少なくできると良いことを伝える。  ○参考資料３のネコの言葉を活用して，「見守ることは放置しておくことではなく，合いの手を入れたり，ほめたり，励ますことである」などを押さえる。 | ※図(サイクル)を  見せながら説明  する。 |
| ：  (５分) | **＜学習を振り返りましょう＞**  ○ワークシートに記入する。  ○気付きの共有 | ○すぐにはうまくいかないかも知れないが，できることから試してみることの大切さを伝える。  ※参加者一人一人に感想を聞いても良い。  ※時間がない場合は，目を閉じ，自分自身で振り返る方法もある。  ※ファシリテーターからの感想があっても良い。 | ※ワークシートに無理に記入しなくても良いが，省略はしない。 |
| ： | ○終了・片付け  ○アンケート記入 | ○参加者全員で行う。  ○アンケート記入者から流れ解散。 | ※現状復帰 |
| 〈メモ〉 | | | |